

## ピクトグラムとは

### －病院図書館・患者図書館で役立つピクトグラムを考える－

寺澤 裕子<sup>1)</sup>、川野 眞樹<sup>2)</sup>、高橋 眞由美<sup>3)</sup>、武田 昭子<sup>4)</sup>、林 伴子<sup>5)</sup>、松尾 知香<sup>6)</sup>

1)関西労災病院、2)京都第二赤十字病院、3)島根県立中央病院、

4)刈谷豊田総合病院、5)社会保険神戸中央病院、6)石切生喜病院

ピクトグラムとは、矢印、非常口やトイレの表示、道路標識など、さまざまな指示や注意を文字に代わって表したものです。「意味するものの形状を使って、その意味概念を理解させる記号」であり、言語の違いや、教育・年齢・経験の差を超えて直感的に理解できるグラフィック・シンボルです。

ピクトグラムは人と物、または人と人との接点においてその役割を果たし、主に安全確保、生活や業務の合理化、用いる言語が違う人々の交流やコミュニケーションを円滑にすること、福祉の分野などで活躍し、標準化も行われています。

標準化は「他の人の経験の上に立つ技術成果を利用できる」点に意義を置き、必要性和緊急性の高い意味項目を優先して行われています。標準化が地域や組織に限られている場合や、それも行われていないピクトグラムも、標準化されたピクトグラムと併用することによって豊かなコミュニケーション文化を期待できる点から望ましいといわれています。

よいピクトグラムとは「知りたい人に、知りたいときに見えて、余分な労力を必要とせずに理解され、普段は風景と調和して見えていても見えない状態でそこにある」ものです。ピクトグラムを作成する際にはこれを踏まえて、具体的には色や形、図案、心理面や配置などに注意をして作成し、作成後も定期的に見直しを行う必要があります。

医療関連のピクトグラムには、インドで 1981 年に作られた文盲の人のための医薬品ラベル表示や、薬の適正使用協議会が用法や用いる時間の目安、注意事項などについて作成したくすりのピクトグラム、ベッドまわりのサインづくり研究会が 2009 年に開発・提案した医療看護支援ピクトグラムなどがあります。

図書館では、図書館用品のカタログ中でアメリカ IGA のピクトグラムをもとに作成したものが紹介されています。私たちが見たものに限られますが、国内標準である JIS 規格のピクトグラムや、独自にデザインしたピクトグラムを用いている図書館もありました。

病院図書館や患者図書館においては、書架見出や、安全のための、あるいはマナーを守ってもらうための館内サインなどにピクトグラムが役立つと考えました。

文献を読んだり、ピクトグラムを見比べたりして検討を行っている現状をご報告いたします。